



Letter from SUDAN

الرسالة من السودان



2016年にスーダン初の世界自然遺産に登録された「サンガネーブ海洋国立公園」。サンゴ礁の上に設置された灯台からの景色

1 はじめに

アッサラームアライクム！（こんにちは）青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動・千頭佐和子です。

スーダン共和国の首都ハルツームの青年スポーツ省に所属し、ユースセンターや学校を巡回しながら青少年にスポーツ振興を行う活動をしています。

11月に入ってスーダンも朝晩は随分と過ごしやすい季節になってきました。実は砂漠気候のスーダンにも四季があります。日中の気温は、
春：めっちゃ暑い（40℃程度）
夏：死ぬほど暑い（45℃程度）
秋：めっちゃ暑い（40℃程度）
そして冬はやっと「暑い（30℃程度）」になりますが、夜は屋内でも毛布なしで寝られないくらい気温が下がります。

このレターではスーダンでの出来事や感じたこと通して、みなさんの中のスーダンやアフリカのイメージが少しでも身近なものに変わってくれたらいいなと思います。

2 イード・アルアドハー（犠牲祭）

今年2番目のイード、イスラム教最大の祝祭「イード・アルアドハー」が8月21日～25日の5日間にわたり行われました。

「イード・アルアドハー」は前回ご紹介したラマダンから約2ヶ月後に行われます。ラマダン明けに行われる「イード・アルフィトル」と同様、イスラム教の宗教的な祝日で、長期間に渡ることから「大イード」とも呼ばれており、日本語では「犠牲祭」とも訳されています。

なぜ「犠牲祭」と呼ばれているかというと、アッラー（神）へのお近づきとして家畜を屠（ほふ）ることが推奨されているからです。

早朝のサラ（礼拝）の後、男性は自身と家族のために家畜（スーダンでは主に羊）をイスラム教の教えに則って、苦しめないようにコーランを唱えながら慣れた手つきで素早くさばいていき、①自分たちが食べる分、②プレゼントする分、③貧しい人々に配る分、の3等分にします。

私はどうしてもその光景を見ることができそうになかったため、屠殺が終わった頃を見計らって、お料理だけいただきにスーダン人のご家庭にお邪魔しました。（写真はもらいものです）

それでも、早朝のバスには大きな斧やナイフを持っている男性（屠殺専門の人？）が乗っているし、通りには血が染み込んでいるし、食べられない尻尾やひづめが所々に落ちている（普段から多少は落ちている）ので、犠牲祭の雰囲気はしっかり感じることができました。



若い世代にはできない人もいるようですが、基本的に家庭内で行います。写真はお邪魔したお家のお父さん。

3 活動先紹介③ アルマアーリー高等学校

現在、私は3か所のユースセンターと5か所の学校を巡回してスポーツ振興を行っています。

スーダンの学校は基本的に小学校から男女別で、同じ学校の敷地内でも入り口や校舎が分けられており、同じ教室で学ぶことはなく、顔をあわせることもありません。

体育の授業は一般的にカリキュラムに組み込まれていないため、幼少期から基本的な体の動かし方を体得できていない印象です。特に、文化的な背景から女の子は外で遊ぶことが少なく、日常的にスポーツをして

いる子はほとんどいません。

今回ご紹介するアルマアーリー高等学校では、1年生（14歳）の4クラス（1クラス50人）の女子生徒を対象に、週に1回ずつ体育指導をしています。本来なら無い体育を時間割に組み込んでくれ、用具も希望通りに揃えてくれました。校長先生も担当の先生もとても協力的で、子どもたちのためなら何をしてもいいよと、貴重な時間を全面的に任せてくれています。

さらに、校舎の間にバレーコートを作ってくれたので、まずは女子に

人気のあるバレーボールから始めました。最初はボールを投げられない（投げ方がわからない、同じ側の手足が出る）、受けられない（落下地点がわからない・ボールが怖い）、など衝撃的なことばかりでしたが、今ではサーブ、トス、レシーブを使って簡単なゲームができるようになり、全学年でクラスマッチを行うこともできました。

しかし、中にはすでにスポーツに苦手意識があり、やってみたいけどどうせ下手だから積極的になれない、と感じている生徒もいます。

これまで、ハンドボール、サッカー、ドッジボール、などを行いましたが、今後もできるだけ多くの種目を行なって様々なスポーツに親しむとともに、全員が気軽にスポーツを楽しめる環境を作っていきます。いつかスーダンで女性のスポーツが当たり前という環境が根付くよう、手助けができればと考えています。



まずはボールを両手、片手で投げて受ける練習から



日向は暑くてスポーツできないので、校舎の影で行います。

4 砂漠の国スーダンにある海の世界遺産「サンガネーブ海洋国立公園」に行ってきました。

紅海唯一の環礁（サンゴ礁）を擁する世界自然遺産サンガネーブは、首都ハルツームからバスで12時間、スーダンの海の玄関口のポートスーダンから、さらにボートで30分以上沖合に出たところにあります。少し北にあるドンゴナーブ湾と同時に2016年に世界遺産に登録されたばかりで、昨年、日本のテレビ局が世界初のテレビ撮影に成功したというほどです。秘境と言ってもいいかもしれません。

紅海は砂漠に囲まれているため流入する河川がないので、海水の透明度が高く、サンゴなどの固有種も多いことから、世界のダイバーの憧れと言われています。

さらに、紅海を観光資源に開発された北のエジプト側と違ってスーダン側はほとんど観光地化されておらず、沿岸部の産業・商業も発展していないので、紅海の素晴らしい透明度、サンゴ礁の美しい自然美、豊かな生態系が保持されています。

サンガネーブでは、世界遺産を貸切状態で存分にサンゴ礁シュノーケリングを楽しみました。



水深1メートルほどのサンゴ礁の上をシュノーケリング

2018.11.30



千頭佐和子（ちかみさわこ）

高知県高知市、1982年11月生まれ。青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動。JFA公認サッカーC級コーチライセンス保有。アフリカ北東部にある青ナイルと白ナイルの合流点に位置する砂漠の国スーダン共和国にて活動中。高知の建設機械会社で11年間広報業務に従事、平日の夜と週末はサッカー漬けの生活を送っていたが、スポーツの素晴らしさを子どもたちに伝えるべく、現在は首都ハルツームにあるユースセンターや学校で、青少年へのスポーツ振興を行っている。

ブログ：JICAボランティアの世界日記「サーミヤコーチのスーダン滞在日記」 <http://world-diary.jica.go.jp/chikamisawako/>